

(標準的なモデルであり、個によって指導内容が異なる)

教科等のねらい

- 日常生活に必要な数量や図形などに関する理解を深め、それらを活用する能力と態度を育てる。

主な指導内容

- 日常生活に必要な数量の処理や計算
- 長さ・重さ、量などの測定方法の理解と活用
- 図形の特徴、表やグラフの理解
- 金銭や時計・暦などの理解と活用

評価方法

- 生徒一人一人の課題に応じて、生徒の興味関心や生活課題から課題を設定し、指導内容に応じて4観点(①関心・意欲・態度、②見方や考え方、③技能、④知識・理解)を基に評価規準を設定して行う。
- 指導したことを実際の生活に生かすことができたか複数名で評価する。

指導計画

	単元名	指導内容(◎重点)	主な学習活動	評価の観点
4月 ～ 7月	「生活に必要な数量の処理や計算」	◎時計の読み方 ◎暦の見方	<ul style="list-style-type: none"> 曜日、12か月、季節、1年のサイクル、西暦と元号の違いや換算など暦の活用をする。 〇〇年後の自分や家族の年齢など長期的な時間について理解し、見通しをもつ。 	① ③
		○大きな数の理解 ○物の数え方	<ul style="list-style-type: none"> 大きい数(1,000及び10,000の単位)の読み方、書き方、大きさ比べなど10,000程度の数量を理解する。 ものを数える場合、「何羽」「何杯」などの数える素材によって呼称が異なることを理解し、正しく使い分ける。 	④ ②
		◎お金の計算 ○割引の求め方 ○百分率の求め方	<ul style="list-style-type: none"> 買い物したときの総額や支払時のおつりを求める。 2156人を約2000人と表現できることや1000円の2割引きがいくらであるか理解する。 百分率(%)について理解する。 	① ③

9月	「表とグラフ」	○表の作成 ・グラフの読取り	<ul style="list-style-type: none"> ・身体測定の結果の表やグラフ、作業での生産数のグラフを見て、数量を把握する。 ・目的に合わせていくつかのデータを、表やグラフに表す。 ・資料集や書籍にあるグラフを取り出し、読み取る。 	③ ④
10月	「生活に必要な計量」	◎測定・計量 ・長さの理解 ・重さの理解 ・面積の理解 ・容積の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・長さ、重さ、容積を表す単位が分かり、ものさしやはかり、計量カップなどの測定用具の扱いに慣れる。 ・太い細い、深い浅い、遠い近い等が分かる。 ・「cm、m」「g、kg」「リットル」場合によっては「cc、ml」なども使う。 ・身近なものを計量する。 	③ ④
11月～12月	「加減の混じった計算」	○四則計算の順序 ○四捨五入の仕方 ・概数の表し方	<ul style="list-style-type: none"> ・生活における加法と減法が混合した計算を行う。 ・「約」、「以上」「以下」「未満」「切り上げ」「切り捨て」「四捨五入」など概数の表し方について理解する。 	③ ④
1月～3月	「平面図形、立体図形」	○図形の性質 ○図形の作図 ○立体図形の性質	<ul style="list-style-type: none"> ・正方形、長方形、正三角形、直角三角形、円などの特徴や性質を理解する。 ・直線、辺、頂点、直角、中心、半径などの図形の構成要素を理解し、定規やコンパスを使って、正確な図形を描く。 ・平行や垂直などの要素をもつ台形、平行四辺形、ひし形、立方体や旧などの立体について理解する。 	③ ④

【デイリーカリキュラム】

	「日常生活に出てくる数量」	○物の個数 ○時計の見方 ○グラフの見方	<ul style="list-style-type: none"> ・場面に応じて、個数を数えたり、時計を読み取ったり、数量を測ったりする場面を設定する。 ・身長や体重の推移など、身近な数量でグラフをかいたり読んだりする場面を設定する。 	②③④
--	---------------	----------------------------	---	-----